

# 《おじいちゃん・おばあちゃんの手記》②

## 大きくなあれ!

佐藤保子

### ◆娘家族、大阪から東京へ

「今日も、漢字テストなんだ」  
「じゃあ、一回ぐらい書いてから学校へ行ったら」  
「平気! 平気! 昨日ましがえたのは『信念』だけだから」  
「『信念』ってどういうこと」  
「わかんない」  
「じゃ、辞書でひいてみたら」  
「えー、めんどくさい」  
孫の等生との、今朝の会話です。  
「鍵開けといてよ、今日、6時間だからね」  
少年の顔をした等生が、玄関から駆けだしてゆく。  
この玄関前のスロープで、もうすぐ2歳になるトーチエ(等生)が、ころっと転げたのは、8年前、引越してきた日のことです。娘家族が、大阪から東京板橋のわが家にやってきたのは、娘夫婦が同時に東京で仕事を始めるようになったからでした。

### ◆弟の耕太誕生

東京に来てしばらくは大阪弁だった等生。保育園の先生にいつも「かわいい!」と言われてくると、親子で大阪弁です。  
等生が4歳のとき、「弟がほしい」とお願いをしていた通りに、弟の耕太が生まれました。予定日より早い出産だったので、生まれたばかりの耕太に会えたのは、産院へ付き添っていったおばあちゃんだけ。パパは、電動車椅子に等生を乗せて駆けつけました。  
娘が入院している間、等生を連れて、毎日保育園の帰り、等生と赤ちゃんと会いに行きました。お兄ちゃんになった等生は、赤ちゃんの耕太をそれはそれはかわいがりしました。

### ◆孫たちの成長を追いかけて

二人の孫守は、結構体力がいるのですが、楽しい発見の日々です。また、自分自身の反省ばかりの子育てを償っているような気がします。一応「頼まれたことだけやる」を基本原則に、「責任はパパママ」と思っているから、孫はかわいいのだとつくづく思います。  
2人の成長は早く、もう4年生と5歳です。今ではけんかで負ける弟が悔し紛れに悪態をつくとき、兄は「おれが弟がほしいと言っ

成立してしまっただけ「障害者自立支援法」は、頸髄損傷の娘婿・家平悟君にとって死活問題。彼は障害者の幸せのために運動するのが仕事でした。

娘は、高校生までは自宅から通っていましたが、愛知の大学、大阪での就職、結婚と14年も離れていましたから、まさか同居するとは思ってもみないことでした。

家の近くのマンションをいくつも当たり、探したのですが、バリアフリーを条件にする点ばかり。探しているうちに、「そうだ、お父さんの退職金でわが家の一階を改装したらいいんじゃないか」ということになった次第です。

娘のふきが、頸髄損傷の青年とつきあっていと聞いたときは、「同情と愛情は違うからね」と、親として精一杯の「忠告」をしていました。それでも2人で決めた結婚へ。岸和田での結婚式は、何だか平和集会のような、会費制の大変賑やかな結婚式でした。親としては、たくさんの方々に見守られている大阪での2人の暮らしぶりに安堵したものでした。

たからお前は生まれたんだぞ」と、弟を黙らせようとします。けんかがやまないと、「もう、ご飯作らないからね。ママが7時に帰ってきてからご飯作るから」と私がストライキ宣言をします。これは効き目があります。  
娘が海外出張のときは、兄弟仲良く、おばあちゃんの言うこともちゃんと聞いてくれます。娘が仕事で遅くなる日が続くとき、兄弟喧嘩も激しくなります。寂しいんだなと思いつつ、「ママが遅過ぎる」と私が娘への小言を言い始めると、途端に「大事な仕事なんだからしょうがないんじゃない」「しょうがないんじゃないからお前は生まれたんだぞ」と、弟を黙らせようとします。けんかがやまないと、「もう、ご飯作らないからね。ママが7時に帰ってきてからご飯作るから」と私がストライキ宣言をします。これは効き目があります。  
娘が海外出張のときは、兄弟仲良く、おばあちゃんの言うこともちゃんと聞いてくれます。娘が仕事で遅くなる日が続くとき、兄弟喧嘩も激しくなります。寂しいんだなと思いつつ、「ママが遅過ぎる」と私が娘への小言を言い始めると、途端に「大事な仕事なんだからしょうがないんじゃない」「しょうがないんじゃないからお前は生まれたんだぞ」と、弟を黙らせようとします。けんかがやまないと、「もう、ご飯作らないからね。ママが7時に帰ってきてからご飯作るから」と私がストライキ宣言をします。これは効き目があります。

でも、「子どもは無理だよ」と言ってきた。私は、働きながらやっとの思いで3人の子どもを育ててきましたが、夫の協力なしに子育ては無理と思っていました。そんな私に、娘は「生理が始まったとき、お母さんは言ったじゃない。これは赤ちゃんを生む準備なんだよ。私ずうっと待っていたんだよ」と、電話口で泣いていました。

### ◆初孫等生はかわいかった

それから4年、悟君とふきはとうとう第一子を授かることができました。4月のお産のときは、仕事の関係で行ってあげられなかったのですが、初節句には、鯉のぼりセットを抱えて、夫と一緒に、いそいそと初孫に会いに行きました。

トーチエは、大阪のおばあちゃんやお姉さん夫婦、そして、たくさん友人たちにかわいがってもらいました。悟君に教えてもらい、私のパソコンに画面が映る音声付きのシステムを取りつけました。東京へ帰ってから、かわいいトーチエがたくさん届き、楽しませてくれました。

等生が1歳7か月のときでした。夕方、玄関先まで私を迎えにちよこ歩いできたのに、夜にはぐったりしているのです。「風邪でお医者さんにもかかっている」と言うのですが、どうも様子がおかしいので、雨のなか、車で夜間救急センターへ。そこで「川崎病の疑いがあるのですぐに市立病院へ」と言われ、車を飛ばしました。

真夜中の和泉市立病院の廊下で、娘と2

やない」と2人して私をなだめにかかります。じゃあ、喧嘩しないでよ! と言いたいです。

朝ご飯作り、ゴミ出し、洗濯、その上アイロンかけまでがんばっているのは、おじいちゃん。おじいちゃんの雷が落ちないように、孫たちをコントロールするのがおばあちゃん。少しずつお手伝いで孫たちの活躍を増やそうと、思案している毎日です。

大きくなあれ! 等生! 耕太!

(さとう やすこ)



家の前で孫たち



昨年のお正月。家平家族と親戚のみなさん